

秋田県指定有形文化財（建造物）

- ・名称及び員数 うんがんじ 雲巖寺山門 一棟
- ・所 在 角館町白岩前郷33
- ・指定年月日 平成4年4月10日

りゅうたくさん 龍澤山ほうとく 雲巖寺は宝徳2年(1450)白岩城主白岩氏の菩提所として創建された古刹こせつです。享保年間(1716~36)に七堂伽藍しちどうがらん(七は数を示すのではなく、お堂の全てが整っていることをあらわしています)を造営するが、元文3年(1738)全堂宇を焼失、寛延4年(1751)に再建に着手、本堂は同年竣工、山門は安永7年(1778)、庫裏てんめいは天明5年(1785)の建立、観音堂あんせいは安政6年(1859)の完成であり寺観の整備には100年を要したことになる。



<雲巖寺山門>

山門ろうもんは楼門形式であるが、正面と背面を一柱間として長大な虹梁こうりょうが架けられているのが特徴である。木鼻彫刻も力強く、虹梁上の中備には4体なかぞなえ(表裏各2体)の力士を配したユニークなものとなっている。1層両脇に配した



金剛力士像もとても力強く、「ドンパン節」本歌の作者でも知られた大工円満造翁えまぞうが晩年に彫り上げたものなど、豊かな装飾の山門となっていることから、秋田県の地方色を発揮した優れた建築と評価されたものである。

市指定有形民俗文化財

- ・名 称 千体仏(せんたいぶつ)
- ・所在・所有 角館町白岩前郷33 雲巖寺
- ・指定年月日 昭和28年10月24日

天保9年(1838)雲巖寺23世繁林永嶽大和尚の代に、素焼きの白岩焼きの仏像千体ちんたいをつくり堂宇どううを建て祀ったという。この仏像を拝むと、子供が丈夫に育ち、また財産が増えるとの言い伝えがあり、参詣さんけいに来た人が持ち出したものも多かったようだ。明治44年(1911)木元久吉が450体を製作補充したともある。今も、願かけ地蔵として訪れる人が多い。

